

# 第1回田辺市総合計画審議会 会議録

## 第1回田辺市総合計画審議会会議録

|      |   |
|------|---|
| 日 時  | 令和7年10月31日（金）午後2時～午後3時30分   |
| 場 所  | 田辺市役所 1階 多目的ホール   |
| 出席委員 | 25名   |
| 欠席委員 | 5名  |
| 傍聴者  | 報道1名  |
| 会議事項 | 1. 開会<br>2. 委員委嘱・委員紹介<br>3. 市長挨拶<br>4. 会長・副会長の選出<br>5. 議事<br>(1) 第2次田辺市総合計画の概要について<br>(2) 第3次田辺市総合計画の策定について<br>(3) その他<br>6. 閉会 |

### 1. 開会

### 2. 辞令交付・委員紹介

個別の辞令交付は行わず、机上配布にて交付を実施。

出席委員及び事務局出席者の紹介を行った。

### 3. 市長挨拶

皆さま方におかれましては、平素より田辺市政に多大なご理解とご協力を賜り厚くお礼を申し上げますとともに、日頃からそれぞれの分野でご尽力をいただいておりますことに敬意を表する次第でございます。

さて、田辺市総合計画は本市の最上位計画であり、行政運営の指針としてこれまで2度にわたって策定し、推進してまいりました。振り返りますと、平成18年度に策定した第1次田辺市総合計画では、平成17年の市町村合併時に策定した市町村建設計画を尊重しつつ、行政と市民が一体となって計画的にまちづくりを進めていくための基本指針として、「自然と歴史を生かした新地方都市田辺」の実現に向けた取り組みを推進してまいりました。

また平成29年に策定した第2次田辺市総合計画では、「人と地域が輝き、未来へつながるまち田辺」を目指すべき将来像として、これまで進めてきたまちの基盤をベースとして人材育成をはじめ、地域の価値向上、交流人口の増大といったソフト面の充実に努めてまいりました。

一方で国においては、人口減少や少子高齢化への対応、そして東京圏への一極集中の是正

といった地方創生が進められ、本市におきましても、これまでさまざまな施策や対策を講じてまいりましたが、人口減少のスピードは予想以上に早く、全国平均を上回るペースで進んでいる状態にあります。こうした中、今後はこれまで以上にさまざまな視点や角度から人口減少問題にアプローチするとともに、人口減少そのものを織り込んだまちづくりを進めていくことが必要であると、このように考えているところでございます。

第3次田辺市総合計画の策定に当たっては、これまでの取り組みを踏まえながらも本市のさらなる飛躍に向けた10年の基本指針となるよう本市の魅力を生かし、また価値を高めながら次なる創造に挑戦していくことで市民の皆さまが心豊かに暮らすことができ、誇りを持てる持続可能なまちづくりに取り組んでまいりたいと考えております。

現在、庁内において基本構想や基本計画の内容について検討を進めており、原案がまとまり次第、本審議会に諮問させていただきますが、委員の皆さま方におかれましては忌憚のないご意見、ご提案を頂き、より良い計画となるようご協力をお願いいたします。結びに、総合計画審議会が田辺市にとって実りのあるものとなりますよう、また委員の皆さま方のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 4. 会長・副会長の選出

委員より「事務局一任」の声あり。事務局からは和歌山大学教授の西川一弘委員を会長として、田辺市自治会連合会の佃昇委員を副会長として提案、拍手にて承認をいただく。

西川会長、佃副会長による挨拶後、田辺市総合計画審議会条例第5条の規定により、西川会長が議事進行を執り行った。

#### 5. 議事

議事に入る前に田辺市総合計画審議会運営規則第7条第2項の規定により、本会議の議事録署名委員として愛瀬委員、石山委員を指名。

(1) 第2次田辺市総合計画の概要について（事務局から説明）

【質疑応答】なし

(2) 第3次田辺市総合計画の策定について（事務局から説明）

【質疑応答】

(A委員)

第3次田辺市総合計画の策定について、2点質問がある。

まず、地域幸福度（Well-Being）指標の活用について、「2025年3月時点で、全国約150超の自治体が本指標を活用し」と記載されているが、私が以前見た資料では182自治体と記

載があったと記憶しているが、その認識はあるか。

2点目は、Well-Being の考え方について、国から都市計画やまちづくりを進めていく中で Well-Being を基本にして進めていくといった方向性を示唆されており、国ではハピネスと Well-Being を対峙させている。持論であるが、ハピネスとは、例えば「今日は誕生日で、祝ってもらえてハッピー」といった一時的な歓喜のことであると考えている。それに対し、Well-Being には「ing」が付いており、持続可能性が含まれていると考えられる。ハピネスと Well-Being の違いはどう考えているのか。

また、本計画は市の最上位計画であり、県の考え方を市へも反映させながら、市の考えを県に伝えていくことが重要であると考えている。和歌山県新総合計画策定に係る「2040年の和歌山を語る会（熟議）」の内容についても反映していきたい。

（事務局）

1点目の Well-Being 指標を活用している自治体数について、本資料の作成した段階で150超の自治体であったが、正式に調べるとそれ以上になる認識である。そのため、現在活用している自治体は182以上になることも考えられる。

2点目のハピネスと Well-Being の違いについてであるが、Well-Being とは、Well が良い状態を表しており、Well-Being とは良い状態が続いていることを示すことから、委員の認識と同様に考えている。

熟議に関して、先日県の新総合計画案が公表されたが、県と市は対等であると認識している。しかしながら、県の新総合計画とは方向性をあわせつつ、市の考えを県に伝えることが出来るような計画を策定していきたいと考えている。

（B委員）

アンケートの回収率について、第2次総合計画策定時の回収率は3割弱であったと記憶している。今回においても同程度の回収率であるが、回収率が低いのではないかと。3割程度の回答を総合計画の参考にしていくのは無理があるのではないかと。

（事務局）

一般的にアンケートの回収率は30%と言われており、今回のアンケートの回収率は38%である。今回の回収率であれば、総合計画に反映しても問題ない。

（C委員）

現在少子化が深刻化しているため、少子化対策を行うべきである。出会いから出産まで支援を行うことが重要である。そのことについて、アンケートで伺うべきではないのか。

(西川会長)

アンケートでは、そういった設問もある。また、少子化に対する取り組みについては、審議会の第2回以降議論していきたい。

(D委員)

アンケートの集計について、地域別で分析する必要がある。本市は、合併してできた市であるため、地域性を理解し、本計画に反映するべきである。

(事務局)

アンケートの質問の中で居住地を、旧田辺地域、龍神地域、中辺路地域、大塔地域、本宮地域の5つでお伺いしており、地域別の分析も行う想定である。

また、配布は無作為抽出であるが、地域ごとにあらかじめ配布数を割り当てて配布しており、旧町村の意見を取り入れやすいようにしている。

(E委員)

交流人口の方に別途お話を伺う機会を設けるのか。

(事務局)

今回のアンケートの中で直接的に交流人口を示す文言はないが、今後関係者ヒアリングの中で移住定住に関わっている団体にヒアリングする予定である。そこで移住定住や交流人口についてのご意見をいただく予定である。

(E委員)

交流人口の方にはアンケートは行う予定はないのか。

(西川会長)

交流人口は大事であるため、交流人口の方からの意見も聞いたほうが良いと思う。ご検討をお願いしたい。

(F委員)

重点プロジェクトの位置付けについて教えてほしい。今後、どのような議論を行い、まとめていくのか。

(事務局)

まず、第2次総合計画では基本構想に「人」、「活力」、「安全」、「希望」、「安心」、「快適」の項目があり、その項目に施策が付随している。

例えば、「人」の項目であれば、横断的な考えを踏まえて人材の育成や価値の向上等のプロジェクトを計画に記載している。そのようなプロジェクトが重点プロジェクトにあたる。

(西川会長)

市として、重点的に行うべきことを重点プロジェクトとして列挙している認識である。

第2次総合計画の重点プロジェクトは、数が多いため、本計画では多少まとめても良いのではないかと考える。

(G委員)

Well-Being 調査は、様々な機関で活用されており、Well-Being が高いと言われている国はフィンランドやスウェーデン等の北欧三国である。他に、何度も1位になっている国は、GDP ランキングが150位以下の太平洋の小さな島国フィジーである。用水や道路は舗装されておらず、草が生い茂り、停電も頻繁に起きているが、住んでる人の幸福度は高い。その理由は安心感である。誰かが助けてくれるであろうという安心感があつたり、実際助け合いをしたりしている。

本市にも似たものを感じており、ここだとのんびり出来たり、住民の気質が柔らかく優しいと感じたりするので、そこが本市の魅力である。

幸福度には、そういったおおらかさが大事で、そのおおらかさはまちの人たちで作っていく必要がある。

(西川会長)

日本が発展していくにつれて捨て去られたものが本市には残っていると思う。また、本市はコミュニティが狭いが、それが関係人口にとっての良さでもあると感じる。そのような強みを本計画に落とし込むことができるかどうか分からないが、関係人口の意見として取り入れていきたいと思っている。

(H委員)

本市には地元の方も気付いてないような強みがあると感じている。そういった点を本計画に要素として取り入れていくことができれば、良い計画になると思う。

また、子育てや人口減少についても重点的に取り組んでほしい。以前、京都市に住んでいたが、そこで感じたことは、文化は「北」からくるということである。逆に言えば、南には届きにくいということである。本市は和歌山県の南部に位置しており、情報が届いていないこともあり、実際に北側よりも子育て支援の情報量は劣っていると感じている。

本計画で、南から風を吹かすことができるようにしていただきたい。

## 6. 閉会

基本構想の策定に係る意見・提案、審議会の進め方等に対する意見の受付について、事務局より案内し、閉会。